

日本大学三島高等学校 同窓会会報

第30号

平成13年3月1日
静岡県三島市文教町2
日大三島高校同窓会 発行



御挨拶

会長 高田菊平

第1期生・ニューデルタ工業株社長
(三島市梅名)

会員の皆様におかれましては、お元気に御活躍のことと思います。2001年を迎えて新世紀の始まりという、なんなく全てが新しく生まれかわるような錯覚をおぼえそうな気がしますが、はたしてどんな時代になるのでしょうか？

今年は巳年であります。我が家では毎年暮に菩提寺から新年を迎えるにあたり、著名な老大師の書かれた干支にちなんだ色紙をいただくのですが、今年は“脱皮”と書かれていました。蛇は表皮が古くなると成長につれて脱皮する。我々も旧習や古い考えを捨てて、精神的進歩発展をとげなければならぬと、添え書してありました。

ちょうど20世紀から21世紀に入ったこの年が“脱皮”で表されるとするならば、今の世想を表現しているもの

だと思いました。20世紀のいろいろな変化は新しい世紀に向かって大きな“脱皮”をするための“もがき”であったように思えるのです。

21世紀は大競争の時代といわれます。グローバル化・IT革命・規制緩和・マーケットインの拡大が同時に進行して、さらに複雑な不透明の時代で、事業の改革、経営のしづみ・企業文化の革新を果せない企業は競争から脱落してしまう。私達の生活の周辺上でそれらの影響で大きく変化していく。そして90年代はドックイヤーで進んだ時代であるとすれば、今年以後はマウスイヤーと云われるよう、想像を絶する速度で、新産業・新技術が誕生していく。そのたびに既成の産業構造と産業地図がぬりかえられていく時代に入っている。今年の正月の各新聞の社説にはござつてこのようなことが書かれていました。

私達はこの時代をのりきっていくのには、どのように“脱皮”をしてきたか、又、今後どのように“脱皮”しようとしているのか、そしてそれにいかに早く“FAST”に成しとげができるかが厳しい21世紀を乗り切る大切なポイントになっているような気がします。

会員の皆様はこの21世紀をどのように感じておられるのでしょうか？

(平成13年1月15日)



SEED ～21世紀へ～





御挨拶

校長 佐々木 久信

本校は創立以来多数の有為な人材を輩出し、4万数千を超える同窓生の皆様は、県内を始め全国の様々な分野で立派な活躍をされておられます。校長としてこのような伝統を守って学校運営をしていくことに身の引き締まる思いであります。同僚の先生方や職員に協力をお願いすることはもちろんですが、同窓生の皆様からもご支援、ご協力をいただきたいと存じます。微力ながら精一杯の努力を重ねる所存でございますので、よろしくお願ひ申し上げます。

日本の教育を取り巻く環境は、例えば少子化の深刻化や少年犯罪、非行の続発など極めて厳しいものがあります。こうした環境の中で、本校の発展のために、よき伝統をきちんと守ることと共に、新しい時代に対する適切な施策・改革に取り組む必要があると考えます。私は「高校大学一貫教育」の実現を教育改革の重点方針としまし

た。七年間の一貫した方針のもとに、本当に力のある学生を育てて社会に送り出したいと考えます。

幸い、今年度は伝統を受け継ぎ体育、文化活動において各種全国大会等で優秀な成績を収めることができました。今後とも野球部を始め各部活動の充実に一層努力していく所存です。また、勉学面においても、例えば平成12年11月実施された「日本大学統一テスト」には1万1,300人以上が参加しましたが、本校は文系第一位、理系第三位の栄誉を獲得しました。100番以内に各々9名、11名が入っています。これは先生方の適切なご指導と生徒諸君のがんばりによる結果にほかなりません。

今年度の主な改革を申し上げると、第一に国際関係学部の教授陣による特別講座「外国事情」を実施、第二に生徒海外語学研修を実施、第三に次年度以降の準備として、英検対策講座、補習講座等の試行的な実施があげられます。

これらを踏まえて、次年度から第一に「総合的学習の時間」を必修として新設し、第二に「国際理解の時間」（必修）、「科目演習」（選択必修）の二科目を本校独自の科目として設置し、第三に一年間の海外留学を特色とする「国際クラス」を新設することとしました。盛りだくさんの試みですが、着実に進めていきたいと思います。皆様方のご協力と、貴重なご意見をお寄せいただきますよう重ねてお願い申し上げます。

平成12年度事業報告

1 総会 12年10月21日 田代パレス

- (1) 会長挨拶
- (2) 国際関係学部長 佐藤三武朗先生挨拶
- (3) 校長 佐々木久信先生挨拶
- (4) 議事（事業報告・決算報告・事業計画・予算・その他・同窓会支部旗作製の件）
- (5) 懇親会

2 幹事会

- (1) 9月30日 三島プラザホテル 総会について
- (2) 2月3日 田代パレス 入会式・会報について

3 事業

- (1) 2月24日 第41期生入会式 母校8号館
表彰（奨学金）諏訪紗耶香・鈴木宏隆
記念講演
「夢を追いかけて」
(努力する限り可能性は無限)
講師 山本 昌邦氏（本校17期卒業生）
サッカー日本代表コーチ

(2) 3月1日 同窓会会報30号発行

4 支部

静岡支部総会

「静桜倶楽部」 平成12年6月23日(金)
於ブケ東海（静岡駅前）

三島支部会

平成13年1月26日(金)
於：摩天楼



新入会員を迎える



鈴木 芳典
(29期)

第41期生の皆さん、卒業おめでとうございます。そして日大三島高校同窓生として、同窓会の入会を心より歓迎いたします。

21世紀の幕開けとともに、皆さんはこの日大三島高校を巣立ち、やがては社会を背負っていく立場になります。この21世紀が明るいものになるかどうかは、皆さんの肩にかかっていると言っても過言ではありません。現在の状況を考えてみても、世の中は暗いニュースであふれ、これから先のことを悲観的に考えてしまうことがあります。明るい未来を創造していくには、多くの厳しい試練や困難が待ち受けていると思いますが、それらを乗り越える上で、本校で学んだ3年間で培ったものはきっと大きな財産になるでしょう。

これからも、母校で学んだ思い出を大切に心の中にしまっておいて下さい。そして母校のことを懐しく思ったら、いつでも遊びに来て下さい。

各支部長一覧

支部名	三島	田方	沼津	御殿場	富士	富士宮	静岡	熱海	小田原
氏名	永井嘉大	内田敏明	今井信之	武藤康徳	西村雅幸	秋山一雅	辻韶彦	谷口俊司	川口功一
住所	駿東郡長泉町納米里二〇四一三	田方郡大仁町吉田八三五一四	沼津市市場町一〇一	御殿場市二枚橋五四一四	富士市横割六一工五	富士宮市浅間町四一五	静岡市呉服町二一八一九	熱海市上多賀九二〇一	小田原市東町四五五二〇
TEL	〇五五九二八七一七三七〇	〇五五九二八七一三三七	〇五五九二八三一七八七八	〇五五九二八三一〇四三二	〇五四五二六一五一七五	〇五四四二六一三八四七	〇五四二五三一〇二六	〇五六七二六八一四〇二三	〇四六五三四一三五三七

入会の言葉



それぞれの旅立ち

41期生代表
八木 宏樹

私たち第41期卒業生796名が無事卒業し、伝統ある同窓会に入会させて頂けることを、大変うれしく思います。

卒業の日、3年間を振り返ると様々なことが鮮明に思い出されます。平成10年4月に緊張と期待を胸に銀杏並木通り校門に入ったこと。入学してすぐの桜陵祭では、その素晴らしさを感じ、2年生での修学旅行、そして受験勉強とその思い出は両手に余ります。そんな中で私の一生の宝は良き友人です。いつの時も笑い支え合った仲間たちと出会えたことが本当に有り難く思います。そして、同窓会への入会は、先輩方をはじめとして多くの仲間との出会いもありますので、これを一生のものとして大切にしたいと思います。どうか今後ともよろしくご指導のほどお願い致します。私たちも一生懸命努力して後輩の力になりたいと思います。



以下の人たちが各クラス幹事として選ばされました。将来、同窓会をひらく時などは、下記の幹事を中心として連絡をとり合ってください。

1組	白岩和馬	11組	梅原良美
2組	高橋克児	12組	稻川浩之
3組	三ツ石千尋	13組	大川浩之
4組	三谷岳	14組	平井淳文
5組	鈴木聖子	15組	遠藤正博
6組	梅原博之	16組	松本俊幸
7組	青山健太	17組	若田謙一
8組	栗原翼	18組	藤本尚也
9組	山田真人	19組	宮下昌子
10組	小林敦史	20組	倉林義侑

お願い

同窓会員として、様々な形で活躍しておられる方多くあると思います。クラス会などをひらく人たちもあると思います。そんな話題を、母校同窓会事務局までお知らせください。

同窓会総会

平成12年10月21日(土)
於：田代パレス

日本大学三島高等学校同窓会



高等学校同窓会



大学三島高等学校同窓会



恒例となっている総会が本年度も
にぎやかに開かれた。

新校長と日本大学国際関係学部長（3
期生）をお迎えしての会となった。
第1期生からの各期ごとの紹介は相
変わらず楽しいひと時である。

同窓生の皆さん、元気に頑張りま
しょう。

同窓会入会式

平成13年2月24日(土)



「追いかけ
する限り可
能性は無限」

高田会長の挨拶



ロアハイ
第41期生 入会式

表彰



記念講演

講師

サッカー日本代表コーチ

山本昌邦氏
(第17期生)

テーマ

「夢を追いかけて」
—努力する限り
可能性は無限—

講演風景

同窓会は表彰規定にもとづき、諏訪沙耶香
さんと鈴木宏隆君に奨学金（5万円ずつ）を
おくります。この奨学金は母校在学中、学業
成績・人物・自治活動・健康にすぐれ、有為
な人物として学校長より推薦された人におく
られます。



-特別寄稿-

「希望の森」へ

日本大学国際関係学部長

佐藤 三武朗

私は日大三島高校の三期の卒業生として、三島学園に戻り、教壇に立てたことを心から喜んでいます。また、新世紀への輝かしい船出を期する節目の時だけに、私は学部長として責任を痛感しています。

今、日本人は政治・経済・社会・文化に対する自信を喪失し、少子化・高齢化という負の遺産を背負っています。未来に対する希望を持てないでいます。逆に、私は「ピンチをチャンス」と捉え、思い切った施策を講じようと考えています。実は、時代が悪くなると、色々のことが分かってきます。以前には出来なかつたことが実行できるのです。三島市在っての大学です。同窓会在っての高校です。ですから、三島市との共生を重視し、協力

関係を密にしました。同窓会との関係についても同じことが言えます。社会で活躍する同窓生の力を借りて、手を携えながら新たな時代を担う若い人材を育成することが出来たら、もっと骨太の日本人を育成できます。発想を変えることはなかなか大変です。苦しくなると、私は同窓生の皆さん魂の場所である「希望の森」へと向かいます。そこで、未来を見つめる目、過去を踏まえる目を養います。誰が「希望の森」と名前をつけたか知りませんが、素晴らしい場所です。高校時代の三年間を通して、あそこのだけは不思議な場所でした。今になってみると私たち同窓生にとって共通の思い出の場所です。

高校時代にはバスケット部に所属しました。そこで青春を燃焼しました。チーム・プレーの大切さを知り、人を生かすことを学びました。人によって私は生かされました。

グローバル化時代であり、発想は地球規模であることが求められますが、良き日本人の心を持つことの大切さを失ってはいけません。効率を重視しなければなりませんが、潜在的な可能性を見つけて、じっくりと育てる文化こそ魅力的です。「希望の森」へ分け入ると、色々のことを考えさせられます。「希望の森」は我々同窓生にとって魂の場所です。

(平成13年1月22日)

支部だより

静桜倶楽部の活動報告

副支部長兼事務局長

森 藤 卓 郎

わが静岡支部（静桜倶楽部）のこの1年の活動内容を、簡単にご紹介しましょう。

総会は6月23日（金）、JR静岡駅前のブケ東海を会場に開催。この日は辻支部長のたっての意向で総会に先立ち、経済講演会を講師・石野正治氏（浜松大学講師）をお迎えして行う。演題は、「経済トピックスから先を読む」と題して、経済再生への挑戦を成功させるためには、三つのキーワードが必要であるといったことから大変含蓄のある話を聞けたのは、時期を得て誠に幸いであった。当日は、母校から佐々木校長もお見えになり、その来賓挨拶の中で校長は、海外研修や大学への進学率など、最近の高校事情をお話し頂いた。

続いて8月25日（金）には、これも支部恒例となったビアホール例会が御殿場高原にて多数の同窓に参集頂いて、ジョッキ片手に楽しいひとときがもたらされた。

下って11月11日（土）、ボーリングスポーツ例会の開催。汗を流した後は河岸を替え、三笑亭にて極上のすき焼きに舌づみをうつたのも記憶に新しい。

以上、親睦や頭のトレーニングに勤しみながら、わが静桜倶楽部は和気藹々と、21世紀の始まる今年を元気に迎えたところである。が、この2年間努めてきた辻支部長率いる執行部もこの春でお役御免となり、次の後輩へバトンタッチされるが、さらに親睦交流を深めて頂きたいと希うこと、大なるものがある。

この2年間のご協力に、ただただ感謝あるのみ。

静岡支部総会風景



平成12年度に定年退職を迎えた先生方



花野井忠司先生
—理科一
平成12年4月10日付



加藤昭寅先生
—理科一
平成12年6月18日付



石原修三先生
—地歴・公民一
平成12年7月22日付



中神義夫先生
—数学科一
平成12年10月4日付



門馬一郎先生
—国語科一
平成12年12月31日付



松本忠之先生
—地歴・公民一
平成13年2月2日付



井出希久雄先生
—数学科一
平成13年2月12日付



関口昌男先生
—国語科一
平成13年2月16日付



上記の先生方が本年度で定年退職を迎えてされました。同窓生としましては誠に寂しいかぎりですが、先生方の新たな人生が、さらに意義深く幸福に満ちたものであることを、心よりお祈り申し上げます。



42年余りの年月で想うこと

中神 義夫

昭和33年4月、日本大学三島高等学校が創立された。5クラスの新入生である1期生と、校長・校務主任・生徒指導主任・学級担任5人の計8人と、大学の助教授等が授業を担当し開校した。

新入生である1期生は、7才の年齢差があった不完全な私に対し、よく協力してくれた。生徒諸君によって私自身育てられたように思う。そのような私も、平成12年10月4日をもって定年を迎え、現在、非常勤講師となり、第3学年の理系クラスに数学Ⅲ、第2学年理系の数学Ⅱと数学Bを担当し現在に至っている。

定年までの42年7ヶ月、今考えてみるとただ一生懸命生徒と共に学び、その期間は決して長いとは思えなかつた。

42年余りの年月の中で、創立当時の8人の先生方は、大学へ2人の先生が、他の高校へ1人の先生が転出され、その後それぞれ退職された由である。日本大学三島高等

学校を数年前に退職された先生は1人、他の3人の先生は退職後他界された。さみしい限りである。残る1人は私である。

創立以来、半世紀に近い日本大学三島高等学校の歴史は長くも感じる。

時の流れから短髪が長髪になり、制服も学生服からブレザーになった。女子の制服も変った。工業科も昭和56年に閉鎖され、その後特進学級ができた。平成6年より男女別学が男女共学に変り現在に至っている。昭和53年には、日本で最初の国際関係学部が創設され、事実上、日本大学国際関係学部の直系の附属高等学校になった。国をあげて国際化が叫ばれ英語教育に重点をおく現在であるが、世界に眼を向けなければならないのは当然ながら、数学担当の教師としてはいささかさみしさを感じる。

時代が変わったものの校風は現在も生きて、他から高い評価を得ていると確信する。定年を迎え、卒業生に会う機会があるが、社会に多くの有能な人材を生んだ日本大学三島高等学校に対し、新たな自信を持つ。

在校する生徒諸君も、同窓生に負けない日本大学三島高等学校の生徒として誇りをもち、21世紀をになう人材に成長してくれることを期待し祈っている。